上智浴衣デー開催

百周年学生委員会が企画

七月五日、上智大学百周年学生委員会が主催する「上智浴衣デー」が開催された。同委員会が浴衣の着用を呼びかけ、当日は約千二百人が浴衣で登校。色とりどりの浴衣姿の学生たちで、キャンパスは華やかな雰囲気に包まれた。

主催した同委員会は、創立百周年を学生が主体的に盛り上げる活動を行っていくために結成された学生団体。大学と短期大学部の学生約二十人が運営に携わっている。委員長を務める久原啓さん（総社三）は、「なるべく多くの人が参加しやすく、話題にしたいという思いで企画した。浴衣デーをきっかけに、多くの上智大生に創立百周年を知ってもらえたと思う」と話す。

浴衣デー当日は、七夕と連動する企画として、次の百年に寄せての思いを記した短冊を用いたアート制作や、留学生への浴衣レンタルも行われた。また、上智新聞が号外を発行するなど、他の課外活動団体も参加し、盛況のうちに幕を閉じた。

同委員会では、今後もさまざまな企画を予定。久原さんは「百年に一度の機会を学生独自の視点で、学生側からも盛り上げていきたい」と語っている。

委員長の久原啓さん㊧と委員の松田侑里香さん（文独四）

創立百周年記念 募金だより㊿③

上南戦実行委員会からTシャツ売上げの一部を寄付

六月初旬、本学の総合優勝で閉幕した第五十四回上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会の実行委員会から、応援用に販売されたTシャツの売上げの一部を大学への寄付として頂戴しました。

滝澤学長と渡邊さん

応援するソフィアンくん

実行委員長の渡邊涼太さん（国教三・ハンドボール部所属）は「皆さまの応援のおかげで総合優勝を飾ることができ、大変感謝しています。今年は怪我をしてしまい、選手としては十分に力を発揮できませんでしたが、来年こそは万全な体調で連続優勝を牽引したいと思います」と早くも来年への意気込みも語ってくれました。さらに、「今年は体育会以外の学生にも上南戦を応援してもらい、また創立百周年をお祝いするため、マスコットキャラクター（ソフィアンくん）を作りました」との話もあり、体育会以外の学生との結びつきにも目を向けて工夫したことがうかがえました。このような意識が学生たちの中で広がってくれることを期待しています。

なお、実行委員会からの寄付は、第五十回大会から毎年頂戴しており、累計で四十五万円となりました。滝澤正学長から「百周年が終わってからも、これまで通りチャリティは続けてほしい」と支援のお願いがあると、「後輩に受け継ぎたい」との心強い決意も示されました。ご父母や卒業生の皆さまにおかれましても、学生の課外活動支援のため、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

募金受付状況　（2013年6月30日現在）

	件数	金額
ご父母（大学・短大）	5,715	275,818,971
卒業生（大学・短大・社専）	16,034	880,723,866
教職員	4,117	147,353,106
企業	476	1,286,228,405
篤志家など（SJを含む）	362	562,060,714
合計	26,704	3,152,185,062

注1）入金件数／金額を集計しています。
注2）分割払い、給与天引による寄付は、その都度、件数にカウントされています。
注3）被災学生支援のため、累計147,463,189円（内、1,835,000円は短期大学部学生のため）賜りました。

第一回総合就職ガイダンス

夏休みの活かし方を学ぶ

計画的に就職活動の準備を

七月三日、キャリアセンター主催「第一回総合就職ガイダンス～夏休みの活かし方」が学部三年生・博士前期課程一年生を対象に十号館講堂で開催された。

総合就職ガイダンスは就職活動の基本事項から面接対策まで、活動時期に合わせ全六回の開催を予定。今回は株式会社ソーシャルデザイニング研究所の櫻井照士氏が講師を務めた。

はじめに櫻井氏は、就職活動で重要なのは「不安」を克服できるかだと語り、精神的ダメージをコントロールする方法を紹介。また、社会人が学生を評価するポイントを挙げながら、「考えて」「行動する」ことの重要性を説いた。

その上で、夏休みから十月頃にかけて、インターンシップへの参加など社会との接点を持つことが大切だと語った。インターンシップへの参加が難しい場合でも、興味のある業界の見本市や展示会に参加してトレンドを知ること、OB・OGへの訪問や工場見学などによっても社会との接点を持つことは十分可能だと指摘した。ほかにも、企業の筆記試験として利用されるSPIテストの早めの対策の必要性など、さまざまなアドバイスが行われた。

真剣に聞き入る学生たち

キャリアセンター主催プログラム

開催日程	時間	場所	名称	対象
9月12日（木）・13日（金）（2日間）	10:00－17:00	図書館 L－921	夏期集中講座「Change the Self」	全学年
9月27日（金）	14:00－17:00	12－302	リーダーシップ基礎講座	全学年
10月9日（水）	17:15－19:00	10号館講堂	第2回 総合就職ガイダンス	2015採用対象（学部3年・院1年）

ソフィア・ルネッサンス連続講演会

世界を伝える日本を伝える

六月二十八日、創立百周年記念事業として第二十五回ソフィア・ルネッサンス連続講演会が、NHK解説委員の道傳愛子氏（一九八八年外英卒）を迎え「世界を伝える・日本を伝える」と題して行われた。

道傳氏ははじめに「伝えるという仕事を通して、より良い世界を作るという取組みの輪に加わることができると考えている」と話し、報道の役割の一つとして「継続して伝え続けること」を挙げた。悲劇を繰り返さないための予防的ジャーナリズムとして、東日本大震災による原発事故の検証を伝え続けることや、紛争や災害の危機を察知して注意喚起を促すことが重要だと話した。

また、本学が取り組むアンコール・ワットの保存修復事業が「Men and Women for Others with Others」という大学のメッセージを明確に発信していると述べ、現在の日本が「より良い世界をもたらすために取り組んでいる」と国内外に示すことができているか、今こそ問われていると語った。最後に道傳氏は、「これからも世界を伝え、日本を伝える仕事を通して自分の役割を果たしていきたい」と話し講演を結んだ。

当日はミャンマーでの世界経済フォーラムや、アンコール・ワットを取材した番組も上映。報道の最前線で活躍する道傳氏の話に参加者は熱心に聞き入っていた。

報道の担うべき役割を語る

SOPHIA DIGEST

■ビオトープ「恵みの泉」にホタルの生息を確認

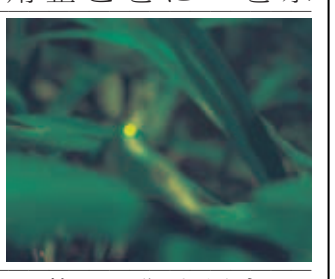
昨年十二月に上智大学創立百周年プレ企画事業として、四谷キャンパス九号館カフェテリア入口横にビオトープ（生物群集が存在できる環境条件を備える場所）が造られた。六月十一日には平家蛍の終齢幼虫約六十匹をこの池に放ち、七月一日に四匹が羽化したことが確認された。

ビオトープ池は学内の公募により通称名「恵みの泉（ラテン語でFons Gratiae）」と命名され、七月四日夜にお披露目会が催された。この日は関係者が集い、六匹の飛翔する蛍を確認し、キャンドルサービスも実施。命名者である星野博子さん（神神四）には感謝状が贈られ、ビオトープの維持に貢献してきた地球環境学研究科の川上毅教授の研究室に所属する中山智香子さん、堀部三幸さん、井上麻里奈さん、芦野恵さん、コウ・キョウゲイさんの五人が、「恵みの泉　守護の女神」として表彰された。

池では蛍の幼虫の餌となるカワニナという貝を育てており、その貝の餌となるキャベツを与えるために、受験生・保護者など百七十九人が参加した。

畔道佳明学務担当副学長が上智大学のグローバル教育について説明したほか、谷洋之外国語学部長、赤堀雅幸外国語学部教授（二〇一四年度より総合グローバル学部教授に就任予定）、西村君代外国語学部准教授が参加して、総合グローバル学部と外国語学部の説明会、体験授業を行った。

個別相談ブースでは、在学生と入学センターのスタッフが学生生活や入試の相談を受け付け、来場した受験生や保護者からは「上智大学の目指す方向が理解できた」「受験に向けて準備すべきことが確認できた」などの感想が寄せられた。



サマーセッション・イン・ジャパニーズランゲージ開講

日本語学習に特化したプログラム

六月十日から七月十九日までの六週間にわたって、外国人学生を対象とした新たな短期プログラムである夏期日本語集中講座「サマーセッション・イン・ジャパニーズランゲージ」が開講し、十三カ国から四十一人の受講生が参加した。

本学では、国際教養学部が開講する科目を広く開放し、学習機会を提供するサマーセッションプログラムを五十年にわたって実施してきた実績があるが、日本語学習に特化した短期プログラムの開設は初めて。従来のサマーセッション受講者や留学生から、「日本語を集中的に学ぶことが出来る短期講座を開設して欲しい」という要望が多数寄せられたことを踏まえ、開設に至った。

このプログラムは語学に加え、広い視点で日本を理解できる内容構成が大きな特長。日本語授業では受講生はレベル別に分けられ、毎日午前に三コマ、全期間で九十コマを受講。午後には、政治・経済・歴史・文化など、日本事情に関する英語での講義を輪講形式で受講した。

また、学生交流や日本の伝統文化も体験できるように、日本人学生と受講生が日本語と英語をお互いに学び教えあう「ランゲージエクスチェンジプログラム」や、国立劇場での歌舞伎鑑賞教室なども併せて実施された。

日本語の授業風景

キャンパス情報

◆カウンセリングセンター保護者優先相談日

カウンセリングセンターでは、学生のようすが気にかかる保護者の皆さまからの相談を、授業が実施されている祝日に優先的に受け付けています。平日の利用が難しい場合など、ぜひこの機会をご利用ください。次回の保護者優先相談日は10月14日(月)の体育の日です。なお、利用にあたっては事前予約をお願いしています。**問合せ**　カウンセリングセンター　☎03（3238）3559